



**CROWN
BIOSCIENCE**
Together with **MBL**

組織学とデジタルパソロジー

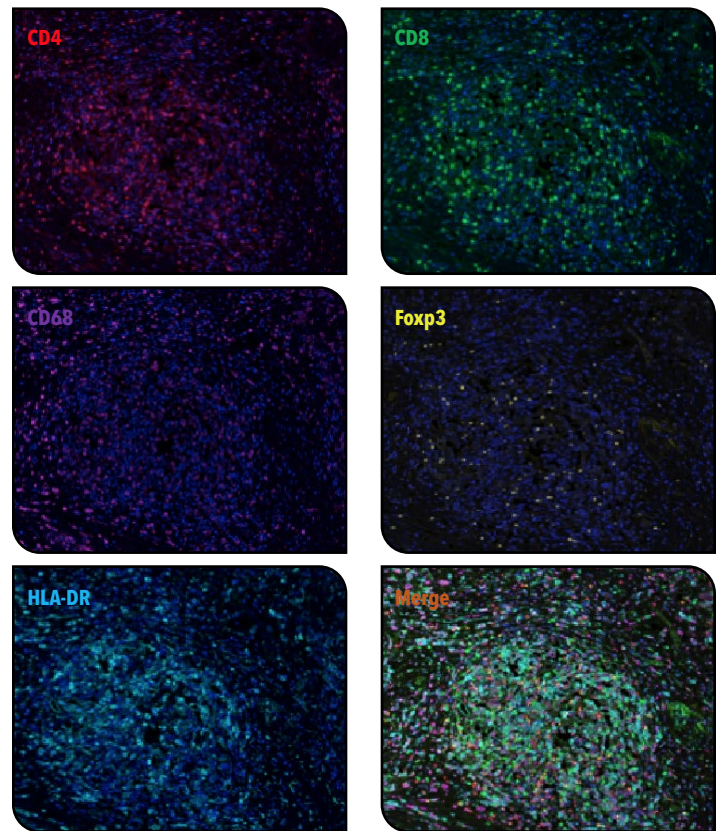
次世代IHCとIFによる薬物作用の正確な可視化

細胞成分の空間分布を網羅的に把握することで、薬剤の作用機序 (MoA) や有効性を調べることができます。すなわち、薬剤に対する応答性や安全性に関わるバイオマーカーの発現を正確に可視化できれば、非臨床および臨床試験の成功率向上につながります。

当社の組織学とデジタル病理学のプラットフォームは、非臨床のサンプルやCLIA規制対象外のサンプルに対して高品質な分析が可能です。

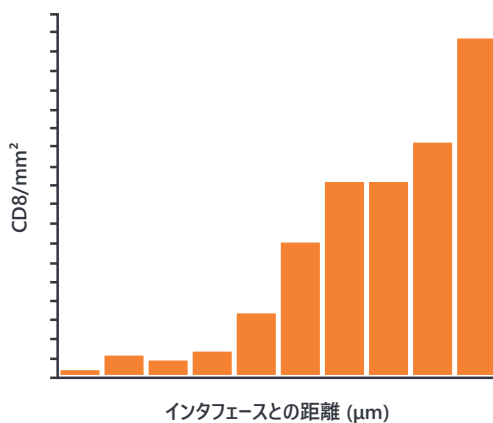
- 当社の組織学とデジタル病理学のプラットフォームの特徴は『正確性』と『迅速性』:
 - スピード、効率、品質に優れたLeica BOND RXによる全自動IHC & IF染色
 - 世界的にも信頼性の高いNanoZoomerによるスライドの自動スキャンと迅速な画像データ共有
 - ハイプレックスFLとマルチプレックスIHCによる組織形態の詳細な解析
 - 業界標準HALO™による細胞内構造の特定、組織の分類、およびタンパク質の空間分布や近接性の分析
 - 当社の厳格なバリデーションおよびQCによる測定結果の安定性
- 組織マイクロアレイによるスクリーニングを実施し、目的のタンパク質を発現するモデルを適切に選択
- IHCで検証済みのバイオマーカー300種以上から目的のものを選択し、研究を効率的に推進
- データ転送ソフトウェアを用いたデータの一元管理・分析により人為的なミスの回避
- 抗がん剤治療効果とMoAの解析を目的とした腫瘍微小環境 (TME) の詳細分析

肝細胞がん患者組織のマルチプレックス免疫蛍光染色画像

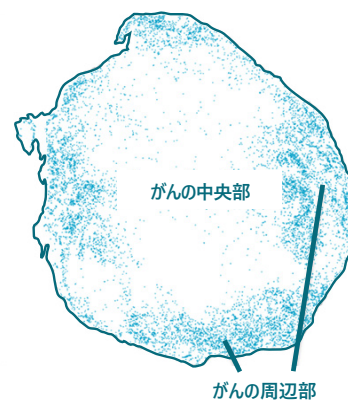


FoxP3, CD4, CD8, CD68, HLA-DR及びDAPIでそれぞれ染色

TMEの空間分析



インタフェース周辺のCD8密度



がん周辺部においてCD8+ T細胞は高濃度に分布

